

三光図書館だより



～年末年始休館のお知らせ～

12月29日(土)～1月4日(金)

今年も一年三光図書館をご利用いただきありがとうございました。
迎える新しい年もどうぞよろしくお願いたします。

年末年始大忙し！！



市民の本棚

中津市立図書館

— 年末年始お役立ち本をご紹介します！ —

- 『世界一のお掃除術』 ミニマル+BLOCKBUSTER/彩図社
- 『すっきり暮らすための掃除・片づけのコツ』主婦の友社
- 『読むだけで「うまい」と言われる字が書ける本』
根本 知/阪急コミュニケーションズ
- 『書家の年賀状』芸術新聞社編
- 『和紙絵の年賀状』田中 ゆみ/日貿出版社
- 『季節を楽しむおもてなしの食卓』野崎 洋光/KADOKAWA
- 『12月31日でも間に合う簡単おせち』星野 奈々子/学研
- 『冷凍・冷蔵ワザで詰めるだけ！らくらくおせち作り』
岩崎 啓子/ルックナウ
- 『たった1日で完成！作り置きおせちの本』樫出版
- 『後藤加寿子のおせち料理』後藤 加寿子/文化出版局

無断持ち出しを無くそう！

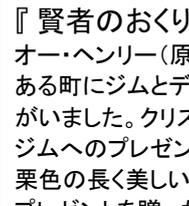
図書館資料は、必ず
貸出をしてください。

12月 2018						
日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23 30	24 31	25	26	27	28	29

クリスマスの絵本



『あいたくてあいたくて』
みやにしたつや/女子パウロ会
きらわれもののおかみがブタを追いかけて
いる時足元から「ふまないで」と声がきこ
えました。そこには一匹の毛虫。独りぼっち
だった二人は大の仲良しになります。あ
る日毛虫がいなくなってしまう...



『賢者のおくりもの』金の星社
オー・ヘンリー(原)いもとようこ(文絵)
ある町にジムとデラという若くて貧しい夫婦
がいました。クリスマスの前日、妻のデラは
ジムへのプレゼントを買うために自慢だった
栗色の長く美しい髪を売ります。さてどんな
プレゼントを贈ったのでしょうか？



『100にんのサンタクロース』
谷口 友則/文渓堂
ここは100にんのサンタクロースが住む町
春からクリスマスの前の日まで100にん
みんなで力を合わせてクリスマスの準備を
します。そしてみんなにクリスマスプレゼン
トを配り終わったあとには...

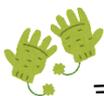
12月3日～7日までの間は、

資料総点検のため休館です。

また年内の開館は28日(金)までです。

気を付けてお越しください。開館時間は

10:00～18:00です(■は休館日です。)



思わず涙・・・感動小説



『悼む人』
五木 寛之
文藝春秋

直木賞を受賞した作品。日本各地で不慮の死を遂げた人の最後の場所を訪れ、故人を“悼む”という旅をしている男・坂築静人(さかつきしずと)。この不可思議な行為をしている彼を軸に、彼に関わる周囲の人々の生と死のドラマを見つめる。



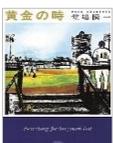
『ゴースト』
中島 京子
朝日新聞出版

少女、ミシン、廃墟・・・人だけではなくいろんなゴーストが出てくる連作集。独特なユーモアでじんわりと読み手のツボを押してくれます。“あの時代”の何かを伝えたくてゴーストとして出てくる人や物。読み終わった後、思わずふわっと涙があふれます。



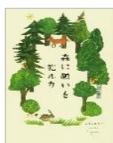
『拳の先』
角田 光代
文藝春秋

ボクシング専門誌から文芸編集者となった空也(くうや)は、ふとしたきっかけで距離を置いていたボクシングに近づき、またボクシングの面白さに魅せられていく。ボクシングを見る側視点で書かれた作品。空也からみた“拳の先”とは？



『黄金の時』
堂場 瞬一
文藝春秋

音信不通だった父・総一郎が亡くなり、遺品を整理している時、一枚の写真を見つけた息子・要。それはアメリカで野球をしている若き日の父の姿だった。野球嫌いだった父がなぜ！？野球を通して本当の気持ちを知る不器用な父と子の物語。



『森に願いを』
乾 ルカ
実業之日本社

死に場所を探しにこの森に入った一。いじめ、就職、恋愛、不治の病。さまざま思いを抱えた人々が森に迷い込む。迷い込んだ人々に森は何を感じ、何を伝えるのか。この森は青木ヶ原樹海のような森ではなく、穏やかで心地よい森みたい。



『希望ヶ丘の人びと』
重松 清
小学館

亡き妻が昔暮らした街に、小学生の息子と中学生の娘を連れて帰った田島。妻が好きだった街“希望ヶ丘”は、子供達も田島も名前の通り、夢に描いた希望の街になるだろうと思っていたが。家族にふりかかる試練。どう立ち向かい何を心得る？



『回転木馬』
柴田 よしき
祥伝社

孤独と葛藤、成長と再生。十年前に失踪した夫の代わりに探偵家業を継いだ唯は、夫の居場所を探し続ける。そんななか出会う、心に傷を抱えた女性たち。幾度の衝撃的な事実遭遇しても、少しの希望を持って突き進む姿に感動します。



『きらきら眼鏡』
森沢 明夫
角川書店

切なくも優しい恋愛小説。男の人が目と鼻を真っ赤にしながら夢中になって読むくらいストーリーがしっかりと作りこまれています。恋愛、死、〇〇角関係は物語の要素としては王道ですが、だからこそ最後の1ページまで飽きずに読めます。



『あらしのよるに』
きむら ゆういち
小学館

狼のガブとやぎのメイ。ふたりはある出会いから友達になりますが、狼とやぎの友情はいつまでも続くのか！？もともとは絵本だった作品が小説版として登場！ぜひ大人にも読んでもらいたい！絵本にはない本当のラストが書かれています。

つぶやき

【代表】小幡記念図書館

〒871-0056 中津市1366番地1(片端町)

Tel 0979-22-0679 Fax 0979-24-3516

●《三光図書館》Tel0979-43-2032 (三光公民館内)

●《本耶馬溪図書館》Tel0979-52-3033
(本耶馬溪公民館内)

●《耶馬溪図書館》Tel0979-54-3111
(耶馬溪公民館内)

●《山国図書館》Tel0979-62-2141

◇メールアドレス: tosyokan@city.nakatsu.lg.jp

◇ホームページ: <http://libwebsv.city-nakatsu.jp/>

12月といえば、クリスマス。イエスキリストが誕生しなすった日ですね！この時期のカトリック系幼稚園では、キリストの誕生劇をします。私もはるか昔幼稚園児だったとき毎年参加してました。仏教徒なのにキリストの誕生を祝う・・・なんかねじてれていますよね。正直、幼稚園のおかげで釈迦よりもキリストの方が詳しいです。